

第
38
号高
石
市

青少年健全育成

発行所
高石市青少年健全育成推進会
(高石市教育委員会)
〒592-8585
高石市加茂4丁目1番1号
TEL 265-1001

高石っ子憲章

高石市青少年健全育成推進会
昭和61年7月15日制定

わたしたちは、高石っ子が自ら豊かな社会をつくり出し、たくましく生きぬく人間に成長することを願っています。

そのため、家庭・学校・地域の協力のもと、自由と平和を愛し、正義と秩序を重んじ、たがいに尊重しあう民主的な人間に育つことをめざして、この憲章を制定します。

1. 高石っ子は、ひとりひとりがかけがえのない人として、たがいの人権を尊重する人間にならねよう。
1. 高石っ子は、自ら学び、考え、判断し、豊かな創造力とひろい心をもった人間にならねよう。
1. 高石っ子は、自然や人間のいのちなみに感動し、生きることへ感謝し思いやりのある人間にならねよう。
1. 高石っ子は、いかなる困難にも立ち向かう意志の強い人間にならねよう。
1. 高石っ子は、家族のふれあいを大切に、家族の一員としてよりよい家庭を築きあげる人間にならねよう。
1. 高石っ子は、あらゆる活動の場を通して、豊かな体験を積み、心身共に健康な人間にならねよう。
1. 高石っ子は、人や郷土・地域を愛し、社会に役立つ人間にならねよう。
1. 高石っ子は、歴史と文化を大切に国際感覚を身につけた人間にならねよう。



あわせて延長保育や一時預かり、病児保育などの多様なニーズに応えるなど、子育て支援の充実を図っています。

さらに、平成31年4月から加茂幼稚園において、3歳

「子育てするなら高石へ」本市では、地方創生の総合戦略の一環として、優れた教育・子育て環境を南海なんば駅等で「たかい、たかい、たかい市」「子育てするなら高石市」と大いにPRし、若年層の定住促進を図ってまいりました。

平成28年12月にはボーネルンド社と提携して、幼児等の遊び場と一時預かりを行う「子育てウェルカムステーション(HUGOOD)」を開設し、利用者が10万人を突破いたしました。(平成31年1月現在)



高石市長
阪口 伸六

「さらなる子育て支援・教育環境の充実」

高石市青少年健全育成推進会会長

児保育を実施し、また園児が安全・安心に通園できるように通園バスの運行を開始します。

「学校教育環境の整備」



タブレットを活用した授業

学校教育環境については、学校耐震化100%、全普通教室のエアコン整備、中学校での自校調理方式の完全給食を実施するなどハード面の整備を実施してまいりました。

また、学校教育ICT化において、各小・中学校に42台のタブレット端末を導入し、動画、写真、図などを生かした様々な授業や、児童・生徒のノート等を提示し、発表ツールとして活用するなどソフト面でも充実を図ってまいりました。さらに今後は、無線LANの環境も整備し、さらなる活用を進めてまいります。

「市内学校の活動」



ロミタ市留学生との交流会

市内の各小学校では、1年生からALT(外国語指導助手)を活用し

た授業に取り組んでおり、高石中学校をはじめとした各中学校では、英語教育において、英検3級レベルをめざして取り組んでいます。取り組みの成果として、大阪府の平均39.5%を超え、43.8%となりました。

また、昨年8月には、ロミタ市(姉妹都市)の留学生との国際交流において、学んだ英語教育を活かし、書道やすごろくなど日本の文化を通じてコミュニケーションを図りました。

高南中学校では、ハンドボール部をはじめ、各部活動が意欲的に取り組んでおり、合唱部も「NHK全国学校音楽コンクール」をめざして、頑張っています。



高南中学校ハンドボール部

取石中学校合唱部は、大阪府合唱コンクール大会で金賞を受賞し、昨年9月に開催された「第73回関西合唱コンクール」中学部門同声合唱の部では銀賞を受賞しました。



取石中学校合唱部

また、取石中学校女子バスケットボール部は、昨年8月に開催された「第48回全国中学校バスケットボール大会」において、全国の強豪校を次々と破りました。決勝戦では、惜しくも敗れましたが、準優勝という輝かしい成績を収めました。



取石中学校女子バスケットボール部

【市民ぐるみで青少年健全育成】本市では、小中学校、幼稚園、保育所、認定こども園のユニバーサル等子育て支援・教育環境の充実に取り組んでまいりました。

一方、青少年自らたくましく生きぬく人間に成長することを願い、昭和61年に制定した「高石っ子憲章」を指針として、いじめ問題に関する講演会や市内小中学校の生徒たちによる「わたしたちの生活を話し合う会」を開催し、長年いじめ撲滅に取り組んできました。

今後とも、引き続き「高石っ子」の明るい未来を築くため、校区福祉委員会や青少年指導員、PTA、自治会、こども会等市民ぐるみで青少年健全育成に積極的に取り組んでまいります。市民の皆様のご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

わたしたちの生活を話し合う会

～わたしたちの学校生活をもっと楽しくするために～
今年度のテーマ「いじめのない学校をつくるために」

毎年、小学校・中学校が連携して開催されています。今年度は34回目を迎え、平成30年12月21日(金)に「高南中学校」で開催されました。高石市立の小中学校から児童生徒の代表が集まり、意見交換して交流を深めました。

今回は第1部では、加茂小学校の取組みについての発表を行いました。第2部ではそれぞれの班で今年度のテーマ「いじめのない学校をつくるために」について話し合い、その内容について、全体に発表しました。

A班 テーマ

「いじめのない学校をつくるために」

【討議内容】

○いじめとは何かについて
差別、人をいじる、暴力、一方的な嫌がらせ、人が嫌がること、自分の嫌なことを人にすること、無視、陰口、わざと隠す、避けるなど
○誰が悪いのかについて
やっつめる人、見ている人、見てみぬふりをしてる人

【2グループに別れて討議】

○いじめが起きる原因
鬱陶しいという気持ち、もともと苦手だ、何かのうらみが積ったこと、暇つぶし
○いじめられていたり、いじめを見つけたら、いじめの対処法
勇気のある人は自分でやめよう、勇気の無い人は親や先生に相談する。
○いじめを見つけた時は、自分が大人に相談する方法
○いじめを予防する方法
クラスのみんな遊び、学校のみんな遊び(年に1、2回程度)、いじめ防止ポスターを学校中に貼る。



○まとめ
両グループで出た意見を模造紙にまとめ、互いに発表し共有した。みんな遊びや、ポスター作りは各々でできることなので、自分達が学校に持ち帰り、広めていきたいと

B班 テーマ

「いじめのない学校をつくるために」

【討議内容】

○はじめに自己紹介とアイスブレイキングをしたあと、
「人がいいやな気持ちになる行動」とはどんなものがあるかについて、
逆「人に優しい行動」とはどんなものがあるかについて、
それぞれ考えた。次のような意見が出た。



「人がいいやな気持ちになる行動」
・かげ口や悪口、傷つくことを言う
・無視をする
・自分の意見を無理やり通そうとする
・優しい行動
・失敗などをしたときに「大丈夫」と言ってくれる
・いつもと違う様子の子に声をかける
・悩んでいる子の話を聞く
○次に、それを模造紙に書き込みながら、特にいいやな気持ちになる行動について、「それらを防ぐためにできること」とについて考え、書き込んでいった。

・みんなに同じように接する
・自分がいいやなと思うことを言わない
・相手の気持ちを考える
・話を聞いてあげる
・いいところを言ってあげる
・ふたつ言葉を増やす
などの意見が出た。

C班 テーマ

「いじめのない学校にするには」

【討議内容】

○最後に、これらの意見をもとに、これから気をつけるべきことを表すキーワードをみんなで作った。一人ひとりが人の気持ちを考える行動することになっていくという思いを込めて、「考動」に決まった。



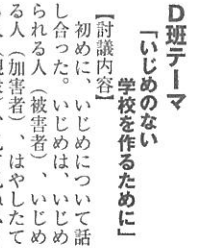
・一人だけ周りと違う
・誰かが「いやだ」と言ったことが広がる
・自分にストレスがたまったら、時にターゲットを決めて責める
などが、いじめの起こるきっかけとして挙げられた。そこから、どうしたらそれが止められるのかを話し合った。大事なことは、「周りが止まらなければいじめは止まる」ということであつた。周りが流れず、「どうしていいのかわからない」と聞いたり、経験したことや話を止めてあげたり、「やめた方がいい」と声をかける、といじめは減るのではないかと意見が出た。たくさんの人がいじめを止めるよう、「いじめを止める」という気持ちでいるために、C班で、いじめを止める

D班 テーマ

「いじめのない学校をつくるために」

【討議内容】

○最後に、一人ひとり行動宣言を考えて、画用紙に書いて発表した。
一人ひとり考えた行動宣言は……
「相談のつてあげて、みんなに優しくしてあげる」
「いじめに関する目標を作る」
「学校で行動宣言を決める」
「人の気持ちを考える」
「仲間に外れにしない」
「一人はつてくれない」
「下級生たちにいじめられたら先生や親などに言うことをつたえる」
「まわりに流されない」
であつた。考えた行動宣言を実行し、いじめのない学校をめざして取り組んでいこうと話した。



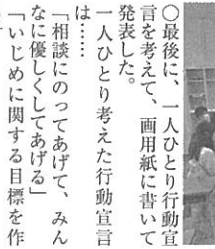
・元談半分にしていたことがだんだんエスカレートしていき、いじめになっていく
・いじめられる側がいやだと感じたらいじめは止まる
・暴力や暴言
などの意見が出た。
○次に、いじめが起きないようにつくるためにできることを話し合った。
・学校全体で一緒に遊んで、みんなが仲良くなるきっかけを作る
・ブルバード運動のように、いじめを無くす活動を学校全体で行う
・いじめを無くす劇を行い、見て見ぬふりをする人たちもいじめに加担していることを知らせる
・いじめられているのを見つけたら、先生に相談する
・一人で、クラスで行動宣言をしてみんなで行動していくなどの意見が出た

E班 テーマ

「いじめのない学校をつくるために」

【討議内容】

○最後に、一人ひとり行動宣言を考えて、画用紙に書いて発表した。
一人ひとり考えた行動宣言は……
「相談のつてあげて、みんなに優しくしてあげる」
「いじめに関する目標を作る」
「学校で行動宣言を決める」
「人の気持ちを考える」
「仲間に外れにしない」
「一人はつてくれない」
「下級生たちにいじめられたら先生や親などに言うことをつたえる」
「まわりに流されない」
であつた。考えた行動宣言を実行し、いじめのない学校をめざして取り組んでいこうと話した。



・元談半分にしていたことがだんだんエスカレートしていき、いじめになっていく
・いじめられる側がいやだと感じたらいじめは止まる
・暴力や暴言
などの意見が出た。
○次に、いじめが起きないようにつくるためにできることを話し合った。
・学校全体で一緒に遊んで、みんなが仲良くなるきっかけを作る
・ブルバード運動のように、いじめを無くす活動を学校全体で行う
・いじめを無くす劇を行い、見て見ぬふりをする人たちもいじめに加担していることを知らせる
・いじめられているのを見つけたら、先生に相談する
・一人で、クラスで行動宣言をしてみんなで行動していくなどの意見が出た

相談乗りますカード(月1回配布)

高石中：目安箱の設置、いじめに悩んでいる人たちのために加担していることを知らせる
高南中：いじめアンケート、文化祭で紙芝居
Q 取石中学校のあいさつ運動はどのようになっていますか？
A ふだん話さない人ともあいさつをし合う事で、コミュニケーションを取り、少しでも環境の改善をする。
○どのようないじめが多いか？
LINE(高石中)・無視、避ける(高南中)・変なあだ名をつける(取石中)
○いじめはどのようにならなければいいか？
・された側が嫌だともつたら(取石中)
○いじめをなくすためには何が必要か？
取石中：お互いの事を知って気付け
高石中：お互いの違いを受け入れる、いじめアンケートを頻繁にする、表情に気付き、気付けたりする
高南中：やられてる側も「嫌だ」と言えるようにする、嫌だと言えぬ環境づくり、毎日いじめが周りにあることを意識する
○「いじめられる方も悪い」というのはどう思うか？
高石中：どちらにも非があると思う。いじめられる原因による。
取石中：小さいいじめで落ち込み過ぎてたことがどうかと、思っていたが、いじめられた人の手紙を読んでかわいそうと思った。
高南中：どちらもどっち。女子だけかも知れないが集団でやるのはダメだと思う。
○生徒会、学校としてできる方法をなくすための具体的な方法
取石中：紙に名前を書き、そ

青少年健全育成推進会の主な取り組み

高石市青少年健全育成推進会では、次代を担う青少年たちが健やかに成長するよう、いろいろな取り組みを行っています。

平成30年度高石市青少年健全育成推進会事業報告

30年

4月

★街頭指導

市内各小学校別に毎月1～2回実施（通年実施）

青少年健全育成の啓発推進及び愛の一声運動等を行うとともに、青少年のたまり場となりやすい場所を巡回し、非行防止と健全育成を図る。

7月

★役員会

平成29年度事業報告

平成30年度事業計画

★青少年健全育成市民大会・社会を明るくする運動

場 所：高石市民文化会館小ホール

参加者：市民約120名

内閣総理大臣メッセージ朗読

高石市保護司会々長 中谷 正彦

講 演：テーマ「関連機関連携を考える」

～子ども支援を進めるために～

講 師：スクールソーシャルワーカー 大松 美輪 氏

11月

★青少年健全育成強調月間

ポスター掲示等による広報活動

★環境浄化運動

市内全域の環境調査（有害図書販売店の調査）

12月

★わたしたちの生活を話し合う会

テーマ：「いじめのない学校をつくるために」

参加者：市内小中学校の児童生徒代表

31年

2月

★学校問題研修会

テーマ：「子どもたちにおけるスマホやインターネット、SNS利用の現状とリスクについて」

講 師：NIT情報技術推進ネットワーク株式会社

代表取締役 篠原 嘉一 氏

高石市青少年健全育成推進会構成団体名

(順不同)

高 石 市	高石市PTA連絡協議会
高 石 市 議 会	高石市連合自治会
高石市教育委員会	高石市社会福祉協議会
高 石 警 察 署	高石市婦人団体協議会
岸和田子ども家庭センター	高石市母子寡婦福祉会
県少年サポートセンター	高石市少年補導員
高石市内幼稚園	高石市こども会育成協議会
高石市内小学校	高石市スポーツ少年団
高石市内中学校	高石市文化協会
高石市内高等学校	高石市体育協会
高石市内専門学校	高石商工会議所
高石市防犯協会	高石ロータリークラブ
高石市保護司会	高師浜ロータリークラブ
高石市更生保護女性会	羽衣ロータリークラブ
高石市人権協会	堺浜寺ライオンズクラブ
高石市人権擁護委員	堺・高石青年会議所
高石市民生委員児童委員協議会	高石交通安全協会
高石市社会教育委員	高石中学校校区地域教育協議会
高石市青少年指導員協議会	高南中学校校区地域教育協議会
高石市内ボーイスカウト	取石中学校校区地域教育協議会
高石市内ガールスカウト	

学校問題研修会(講演)

日 時 平成31年2月1日(金)

場 所 高石市役所2階正庁大会議室

テ ー マ 「子どもたちにおけるスマホやインターネット、SNS利用のリスクについて」

講 師 NIT情報技術推進ネットワーク株式会社

代表取締役 篠原 嘉一 氏

テレビがインターネットにつながるようになり、テレビでYouTubeなどの動画が見られるようになったことでトラブルが増えている。来年度入学してくる小学1年生が心配である。2歳くらいからYouTubeKidsを見せられてもらっている。本を見たこともない子どもがいる。昔は、読む人によって読み方が違って面白かった。例えば、父親の読み方と母親の読み方が違うということがあった。今は、アナウンサーが標準的な日本語で読む。先に進みたいと思えば、早送りが出る。そのため待てなくなっている。また、今見ている動画が面白くなければ、別の動画を見ることができてしまう。これまでは次の話を見たいと思うと、1週間楽しみに番組が放送されるのを待っていた。我慢ができなくなっている。

2歳くらいから好き・嫌いを選別できてしまっている。自分で判断できることで、「気分じゃない」と授業に参加しないこともある。学校の先生方は発達障がいと誤ってしまうが、実はネット依存であったということもある。

文字を知らなくても、キーボードが打てなくても、情報機器に話しかけることで検索できる。SNSでメッセージを送ることも音声のみでできてしまう。こういったことに慣れている子どもが、「AIの時代がやってくるのに、どうして学習しないといけないのか」と言い出すということが起こってくる。宿題をするときでも、AIスピーカーで音声検索すると回答がすぐに得られてしまう。その結果、考えることができなくなる。コミュニケーション用のAIに依存してしまうと友だちとのコミュニケーション能力が落ちる。友だちとケンカをした際には、きちんと謝ることが大切である。

今の子どもにはアナログな経験をさせる必要がある。アナログな経験がないとコミュニケーション能力が育たない。学校は不便を経験する場所である。

学校には携帯電話・スマホを持ち込ませないことが重要である。学校に持ち込み禁止になっていることがシェルターとなる。少なくとも、学校にいる間は、SNSでつながっている相手とつながらずに済む。持ち込みを許可することで、学校が終わってから帰るまでが危険である。例えば、「学校が終わったら〇〇へ来い」などのメッセージが入ってくるなどが考えられる。

携帯やスマホを持っているが、使わないという訓練が必要であるが、我慢できない。会社でも、トイレに行くと、30分帰ってこないといったことがある。今の社会人は、大人になってからいきなりスマホに触れており、子どものころに我慢した経験がない。そのため、ゲームが気になって止められないといったことが起こっている。

現在の小学生は、ゲーム機で我慢する経験があるので、触れないことに違和感が少ない。1時間までと時間を区切ってゲームをすることは学力向上でも良い影響を与える。スマホは自動車というフェラーリのようなもの。ゲーム機で仮免許をとってから使うべき。無免許でいきなりフェラーリに乗って高速道路を走れば危険であるのと同じである。ゲームでの課金トラブルが起こっている。200万円使った子どももお金価値を知らない大きな金額を使ってしまう。

SNSは、電話帳に登録されている全ての人につながってしまう。今の子どもが持っている090から始まる番号は、過去に誰かが解約した番号であることが多く、自動的に以前の持ち主の連絡先に送信されてしまう可能性がある。そうすることで、全く知らない人と「知り合い」になってしまう危険性がある。

ブログ・掲示板等は消去できるが、SNSは消せない。自分の機械から消えるだけ。見られて困ることは書かないことが重要である。企業は採用する際、SNSでまず検索し、確認して問題のある人は採用されない。

今の子どもがつぶやいて「いいね」をもらうのはかまってもいいから。昔のかまってもいい子どもはバイクでとろとろ走ること、警察などにかまってもらっていた。保護者や地域の人がかちんと声をかけてくれば、それが「いいね」の代わりになる。そういったことがない子は、ネットの中の「いいね」をくれる人を求める。

本日の研修内容について、地域の子どもたちに聞いてください。良い答えが返ってきます。そのことをほめてあげてください。そうすることで、子どもたちが地域とつながり、ネット依存を防ぐことにつながります。

